



共栄小だより

〈年度の重点〉 「主体的に学び、共に考え、やり抜く子どもの育成」

旭川市立共栄小学校 学校通信 令和5年度 第5号 令和5年7月21日

かしこく やさしく 元気よく

校長 鎌田 昌記

各学年、70余日に及んだ1学期が終わりを迎えました。その間、どの学年の子どもたちも、笑顔一杯の学校生活を送りながら、一人一人が着実な成長を見せた、と手応えを感じています。これもひとえに、ご家庭や地域の皆様方の温かいご支援・ご協力のお蔭と深く感謝申し上げます。

さて、本校が目指す子どもの姿「かしこく やさしく げんきよく」の実現に向け、今年度「かしこく」については「自分から学ぶ力」を、「やさしく」については「他と共に協働して生きる力」を、「元気よく」については「ものごとを最後までやり抜く力」を身に付けさせようと、教職員一同、日々の教育活動に取り組んできております。ご家庭におかれましても、これに関連した取組を行うことは可能です。例えば、子どもが自分から調べてみようという場面を設け取り組ませたり、手伝いをさせながら家族と一緒に何かに取り組んだり、失敗しても良いから最後まで物事に挑戦させたりする、などです。夏休み期間中、ご家庭でも「かしこく やさしく 元気よく」過ごさせるようご協力をお願いいたします。



明日から30日間の「楽しい夏休み」が始まります。学校では、休み期間中の過ごし方について、子どもたちそれぞれに目標や計画を立てさせ、規則正しい生活を送りながら充実した日々を過ごすよう話をしてきました。明日からはチャイムがなく、自ら考え、行動する日々が始まりますが、それを支えるのはご家庭の皆様のお励ましです。「かしこく やさしく 元気よく」夏休みを過ごし、最後には「充実した夏休みだったな」と子ども自身が実感できるよう、お声がけをお願いいたします。

「ありがとうございます」の一言がもつ重み

先日、私が、とあるコンビニエンス・ストアを利用した際の出来事です。その店は、自動ドアではなく、観音開きの出入り口でした。買い物を終え、店を出ようとドアを開けたタイミングで、一人の男性が入店しようと近づいてきました。私が軽く手を添えドアを抑えている間に、その人はずっと店の中に入っていました。その際、「どうも」とか「ありがとうございます」とか「Thank you」の一言をその人が言ったかどうかは定かではありません。もしかしたら、こちらには聞こえないような小さな声だったのかもしれませんが。あるいは何か考え事をしていて言い忘れたのかもしれませんが。とにかく、少なくとも私の耳には何も聞こえてきませんでした。私はなんだか寂しい気持ちになりました。何も、大きな声で「ありがとうございます！」と感謝の言葉を仰々しく述べてもらうことを期待したわけではありません。ただ、「ありがとうございます」の一言を、相手にきちんと伝わるように言うかどうかで、人に与える印象は違うのだなということを改めて感じた出来事でした。



先月号でお伝えした、「あいさつ」についてもそうですが、「ありがとうございます」の感謝の言葉も、習慣化していれば自然と口に出てくるものです。本校では、あいさつに加え、「ありがとうございます」も意識して使うように、子どもたちに指導をしているところです。ご家庭におきましても、ぜひお子さんに感謝の言葉を使うような促しをお願いいたします。

